

研修報告/粉じん作業特別教育

酒見, 亮佑
九州大学応用力学研究所

<https://hdl.handle.net/2324/1956638>

出版情報 : 九州大学応用力学研究所技術職員技術レポート. 19, pp.60-60, 2018-10. Research
Institute for Applied Mechanics, Kyushu University

バージョン :

権利関係 :

研修報告／粉じん作業特別教育

酒見 亮佑

1. 出張・研修等の名称

粉じん作業特別教育

2. 開催場所・開催期間

開催場所：一般社団法人労働安全衛生推進協会 二日市教習室（福岡県筑紫野市）

開催期間：2018年3月19日（月）

3. 出張・研修等への参加目的

粉じん作業に関する知識の習得。

4. 出張・研修等の概要

本講習会は、関係法令等による受講義務はないものの、粉じんが原因で発病すると取り返しのつかないことになるため、粉じん作業への従事者については受講することを推奨されている。自身については、アーク溶接やグラインダーによる研削作業など当該業務に携わる可能性が十分にあったため、一般社団法人労働安全衛生推進協会 二日市教習室にて特別教育を受講した。本講習会の参加者は6名で、講習時間は4時間半程度であった。なお、講義は全て座学形式で行われた。以下に、研修の詳細について記す。

はじめに、粉じんの発生源とその防止策、粉じんによる疾病について説明を受けた。その後、映像教材をもとに、呼吸用保護具（防じんマスク）の使用方法に関して学んだ。さいごに、関係法令について紹介された。全日程終了後、修了証書を受け取り、解散となった。

5. 所感

粉じん吸引が原因で発病することを広義では『じん肺』と言うが、講習を通して、一度じん肺に罹患すると、現在の医学治療では治せない事を学び、粉じん作業の恐ろしい一面を知った。治療等を含め有効な事後対応策がない以上、粉じんの発生抑制や低減などの事前対策を徹底し、健康被害を未然に防ぐことが肝要であると感じた。また、映像教材の視聴を通して、防じんマスクの正しい着用方法について学んだが、これまでの使用方法には誤りがあることに気づかされた。今後の粉じん作業時には、正しい方法で着用するとともに、周囲に未着用者がいれば、着用するように働きかけたい。

6. 特記事項

粉じん作業特別教育の修了